

2012 年 12 月 17 日

「都市環境の変化と健康」科学委員会参加報告

花木啓祐（第三部会員）

会議名称：都市環境の変化と健康：システム解析アプローチ第 1 回科学委員会(SC)

1st Meeting of Health and Wellbeing in the Changing Urban Environment: a Systems Analysis Approach, Scientific Committee

開催年月日：2012 年 12 月 3 日～4 日 場所：ICSU 本部（パリ）

参加者：Indira Nath (India, Chair), Hany M Ayad (Egypt), Anthony Capon (Australia), Ana V. Diez Roux (USA), Christl Donnelly (UK), Carlos Dora (WHO), Keisuke Hanaki (Japan), Saroj Jayasinghe (Sri Lanka), Susan Parnell (South Africa), Luuk Reitveld (Netherlands), Pierre Ritchie (Canada), Gerard Salem (France), Ilene Speizer (USA), Yongguan Zhu (China), Carthage Smith (ICSU, ex officio) 12 か国 2 機関、15 名

会議概要

先進国と開発途上国、疫学・保健分野と都市分野の専門家から構成される科学委員会の第一回の会合であり、委員全員が出席し、「都市環境変化と健康」プログラム実施計画の内容に関する有意義な議論が行われた。



議事内容抜粋

1. 都市の健康に関する ICSU 全体の科学計画（2011 年 10 月）とアジア地区の科学計画（2011 年 6 月）とプロジェクトについて

前者は IIASA と共同で作成されたこともあり、「システム解析アプローチ」の色彩が強い。データ制約がある多くの国にプログラムを展開して行くには、意味合いが広い「システムアプローチ」の方が適切であり、新たに本プログラムで取られるアプローチを定義した。アジア地区ではいくつかのプロジェクトが提案されており、これらをパイロットプロジェクトとして用いる。SC メンバーで分担して、これらのプロジェクトの趣旨のレビューを行う。

なお、アジア地区の科学計画作成には岸玲子前期会員（現連携会員）が貢献した。

2. ICSU プログラムの実装(Implementation)の内容

地域プロジェクトと国際的フラッグシッププロジェクトの実装

システムの思考の能力の促進

会議の企画とネットワーク形成

新しい知識の交流

都市の健康の分野のシステムアプローチに関する合成・システムのレビュー

3. 国際会議企画（" Intra-urban dynamics and health" 2013 年 9 月 11-13 日、パリ）

http://www.eagha.org/assets/files/Call%20for%20papers_conference_urban.pdf

ICSU が共催団体の一つになってこの会議が計画されている。本プログラムのスタート、広報、資金源団体への働きかけの機会として活用するため、積極的に企画を行う。ISUH (The International Society for Urban Health) と共催するが、ISUH が従来から開催している会議と差別化し、システムアプローチに特化した内容とする。世界各地域で国際会議シリーズを開催する可能性もある。

4. 能力促進(Capacity enhancement)

都市の健康の分野でのシステムの思考の促進がこのプログラムが残す主たる成果になるであろう。

トレーニング、専門家のネットワーク形成である。IIASA との協働、システムアプローチに関する現存のキャパシティビルディングの整理から始める。

5. パートナーシップの構築

既存の活動との競合と重複を避けることを配慮し、パートナーを特定していく。WHO と WHO の神戸センター（WHO 健康開発総合研究センター）を正式に巻き込む可能性を考える。

6. 資金源

ICSU が研究課題を募集、審査してエンドースする方式が考えられるが、資金源が課題。9 月の会議の時に Potential Funders との会合を持つのがよい。日本の場合は高齢社会テーマへの政府補助、中国では NSF の補助が可能か。Gates 財団、Rockefeller 財団の可能性を考える。

7. 国際プログラムオフィス(IPO)

各国に 3 月末締切で IPO 設置を公募する。（注：IPO では事務局長（専門家）とスタッフの人件費などで年間 25 万～50 万ユーロ必要）

8. コミュニケーションとアウトリーチ

SC メンバーはさまざまな機会を捉えてこのプログラムを PR する。そのためにリーフレットなどを作成する。

9. ICSU の地域事務所と国際学術連合メンバーの役割

地域事務所には各地域の活動促進、会議開催などの役割を期待。国際学術連合メンバーについては、AGU のように既に活動を行っているユニオンもあることから、協力対象を特定する。各国アカデミーに対しては、このプログラムについて知らせると共に、各国に国内委員会を設置することを invite する。（花木注：各国の国内委員会については、現状では必要なら設置するという感触）

10. 次回会合

2013 年 5 月 23-24 日に ICSU 本部またはマレーシアのアジア・太平洋事務所で開催（花木出席予定）。9 月の学会の直前の 2013 年 9 月 10 日にも開催（花木欠席予定）

注. Scientific Committee (SC)の役割 (Terms of Reference)

1. Is responsible for the scientific planning , coordination, guidance and oversight of the Programme;
2. Will ensure that global and regional programme activities are integrated under a single coherent framework;
3. Will engage with relevant intergovernmental and non-governmental partners to promote the programme and shape its directions;
4. Will facilitate the involvement of interested ICSU Union and National Members and other Interdisciplinary Bodies, in the implementation of the programme;
5. Will monitor the development of the programme over time – identifying gaps and priorities as necessary;
6. Will play an advocacy role with relevant research funders and donors, both public and private.